

特別支援教育の紹介

特別支援教育は、学習や生活に困難さがある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導および必要な支援を行い、子どもたちの持てる力を可能な限り伸ばし、生きる力を身に付け、自立し社会参加できるように目指しています。

来年度の小学校就学に向けて、また、現在小・中学校に通うお子さんの教育についての心配や悩みをお持ちの保護者の就学相談を随時受け付けています。

問指導課 ☎358

知的障がい特別支援学級

記憶、推理、判断などの知的機能の発達に遅れがみられ、社会生活などへの適応が難しい子どもたちへの学習支援を行う学級です。

小集団の中で、一人ひとりに応じた教科の内容や生活に役立つ内容を学習します。また、健康な体づくりや基本的生活習慣の確立、日常生活に必要な言葉や数量感覚などを養います。

設置小学校

八条・潮止・八幡・大曾根・松之木・中川・八条北・大瀬・柳之宮

設置中学校

八潮・八条・大原・潮止

発達障がい・情緒障がい通級指導教室

通常学級で学習している児童・生徒で、「一緒に行動する」「感情をコントロールする」「学習に集中する」「自分の気持ちを伝える」などのことが苦手であり、さまざまな場面で不適応状態を起こしてしまう子どもたちの教室です。

発達・情緒の教室は、一人ひとりの課題改善・克服を目指し、通常学級で学習をしながら、週に1~4回程度上手に対人関係を築く練習をしたり、感情のコントロール法を学んだりしながら、できる自分を発見させ、自信をもって豊かな生活が送れる力を養います。

設置小学校

大曾根

設置中学校

八潮

自閉症・情緒障がい特別支援学級

「みんなと一緒に行動する」「体の感覚コントロール」「言葉による表現」などに困難さがある子どもたちへの学習支援を行う学級です。

上手に対人関係を築く練習をしたり、コミュニケーションのための言語表現などの学習支援を行ったり、情緒の安定を図ります。

設置小学校

八条・潮止・八幡・大曾根・松之木・中川・大瀬・大原

設置中学校

八潮・八条・大原・潮止

難聴・言語障がい通級指導教室

発音しにくい音(例：さくら→たくら)がある・音や言葉を繰り返す・詰まる言葉がある・聞き取りにくい音があるなど、言葉や聞こえについての心配がある子どもたちの教室です。

通常学級で学習をしながら、週に1回程度言葉を正しく聞き取る力を付けたり、正しい発音の仕方や話し方を身に付けたりし、表現力・コミュニケーション能力を育てます。

設置小学校

大原

表1 削減取り組み結果と削減額

項目	平成26年度		平成15年度使用(排出)量※1	削減量	削減率(%)	単価(円)※2	削減額(円)
	目標	使用(排出)量					
電気使用量(kWh)	平成13、14、15年度の平均値と比較して3%削減	3,570,890	4,218,001	647,111	15.3	25	16,177,775
水使用量(m ³)	平成15年度と比較して5%削減	34,088	34,985	897	2.6	270	242,190
ごみ排出量(kg)	平成15年度と比較して20%削減	53,398	73,704	20,306	27.6	32	649,792
合計削減額(円)							17,069,757

※1 平成16年度以降に新設された施設の使用(排出)量については、新設された年度の数値を基準として比較しています。

※2 単価は、平成16年度取り組み結果で使用した単価です。

表2 二酸化炭素排出削減量

項目	排出係数	平成26年度排出量(kg-CO ₂)	平成15年度排出量(kg-CO ₂)	削減量(kg-CO ₂)
電気	0.53	1,892,572	2,214,451	321,879
水	0.36	12,272	12,595	323
ごみ	2.77	147,912	204,160	56,248
合計	-	2,052,756	2,431,206	378,450

※電気の排出係数は、東京電力(株)の排出係数です。

※二酸化炭素削減量の378,450kg-CO₂は、ぶな林約69ヘクタール(八潮中央公園約63個分)が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当します。

エコオフィスの取り組みで 1707万円削減しました

市では、八潮市地球温暖化対策実行計画(事務・事業編)に基づき、市庁舎、消防署、保育所などすべての施設で電気・水使用量・ごみ排出量などの削減目標を設定し、温室効果ガスの排出を抑制するエコオフィスの取り組みを行っています。

使用量、削減結果

平成26年度のエコオフィスへの取り組みによる目標値については、電気は平成13、14、15年度の使用量の平均値と比較して3パーセントの削減、水は平成15年度の使用量と比較して5パーセントの削減、ごみ排出量は平成15年度と比較して20パーセントの削減としました。

その結果、電気使用量、ごみ排出量について目標を達成しましたが、水使用量については、平成15年度と比較して2パーセントの削減に留まり、残念ながら目標を達成することができませんでした(表1)。

二酸化炭素排出削減への取り組み

平成26年度の二酸化炭素の排出量(単位はkg-CO₂)は、それぞれのエネルギー使用量などに排出係数を乗じて計算します。エコオフィスの取り組みにより、平成15年と比較して、二酸化炭素換算で37万8450キログラム削減できました。

創意工夫の取り組み

その他の取り組みとして、各部署にて環境への負荷が少ない製品の調達、エコドライブ、マイ箸の持参、メモ用紙の再資源化や公共工事における環境配慮、水道部や保育所などでゴーヤなどの栽培による緑のカーテン、保育所などで児童にごみの分別の啓発などに努めています。また、今年の夏も軽装による節電対策に取り組んでいます。

問環境リサイクル課 ☎338

普段の生活を
見直しましょう

私たちは、毎日生活するうえで、たくさんのエネルギーや資源を消費しています。その結果として排出される二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスは、地球温暖化とそれに伴う異常気象を引き起こす原因と考えられています。

節電・節水や物資の再利用などによる省エネルギー・省資源は、温暖化防止だけではなく経費の削減にも通じます。

皆さんもライフスタイルを見直し、地球温暖化防止に取り組ましましょう。